

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山国際大学

代表学生：小林 生真

指導教員：伊藤 葵

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>若い世代のウェルビーイング向上について (課題研究部門 No. 1)</p>
<p>研究概要</p>	<p>富山の魅力は「地域住民のあたたかさ」である。しかし若い世代は、地域行事の衰退、進学や就職での移住などにより、「地域との関係」が希薄化している。そこで本研究では、地域との交流がウェルビーイングの「生きがい・希望」「つながり」を向上させるという仮説のもと、若い世代の地域交流を促進するための「場」を調査し、若い世代の場への参加促進の提案および調査団体と協力した交流イベントの実施を目的とする。</p>
<p>これまでの活動状況と 今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>若い世代が現在交流している「場」の調査として、Sketch Lab, 寄処, みらいのめ, 地域食堂, あなろまっち, トミコエの6箇所にて団体運営メンバーにインタビューを実施した。その結果、「若者が集まる場」は、夢や目標を実現する場、仲間づくりの場として「生きがい・希望」や「若者間のつながり」に対する効果が確認できた。一方で、「同世代で集まる場」は「多世代が集まる場」と比べて「地域」への意識が低い傾向にあるも明らかとなった。そこで、若い世代が地域とつながり、地域課題をジブンゴト化するためには「多世代交流」が重要であると考え、今後の活動では、多世代交流イベント(11月実施予定)を通して、多世代との交流が若い世代の「地域との関係」にどう影響を与えるかを検証する。</p>
<p>当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	



写真 学生団体あなろまっち 運営会議の様子



写真 トミコエ交流会の様子



写真 Sketch Lab 地域づくり交流会の様子